

## 第 学年 生活科学習指導案（例）

日 時 令和〇年〇月〇日

場 所 〇〇〇〇

指導者 〇〇 〇〇

### 1 単元名

（例 1）いきもの 大すき 内容（7）「動植物の飼育・栽培」

（例 2）秋を感じて 内容（5）「季節の変化と生活」、（6）「自然や物を使った遊び」

◇複数の内容で単元を構成する場合は、全て記入する。（学習指導要領解説生活編 P87 を参照）

### 2 単元の目標（一つの内容で単元を構成した場合と、複数の内容で単元を構成した場合）

（例 1）アサガオを栽培する活動を通して（児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等）、アサガオの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持って働きかけ（思考力、判断力、表現力等の基礎）、アサガオに合った栽培の仕方、生命をもっていることや成長していることに気付き（知識及び技能の基礎）、アサガオへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）【1 内容 1 単元の場合】

（例 2）秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。【2 内容 1 単元の場合】

#### 【単元の目標を作成する三つの手順】

- ① 単元を構成する内容について、学習指導要領 P.111 第 2 章第 5 節「2 内容」、または、学習指導要領解説生活編 P.29～51 第 3 章第 2 節「生活科の内容」（1）～（9）に示された記載事項を確認する。
- ② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。  
※複数の内容で単元を構成する際は、「2 内容」に示されたそれぞれの資質・能力を記載する。
- ③ 目標は到達させたい姿なので、文末を「～できるようにする。」とします。

### 3 単元について

- （1）児童の実態（児童観）・・・学級の児童の実態がイメージできるように、具体的に記述しましょう。
- （2）教材について（教材観）・・・その教材の持つ魅力が伝わるように記述しましょう。
- （3）指導について（指導観）・・・授業の方向性と目指す児童の姿について、明確に記述しましょう。

※「児童の実態」「教材（単元）について」「指導について」を、それぞれ記述します。

※「指導について」には、「児童観」「単元観」を踏まえ、指導の方向性及び具体的な手立てを記述します。

※「指導について」は、学習指導要領解説生活編（平成 29 年 7 月）第 5 章「指導計画の作成と学習指導」に示されている内容を参考にします。特に、第 1 節「2 学習指導の特質（同解説 P74～77）」、第 3 節「単元計画の作成（同解説 P87～93）」、第 4 節「学習指導の進め方（同解説 P94～99）」が大切です。

※●●することができるように（●●する力が身に付くように）、〇〇を行う（〇〇する活動を設定する）というように、手立てとその目的の両面から記述すると、授業者のねらいがしっかりと伝わります。

#### 4 研究テーマとの関わり

※研究授業など、校内研究テーマや教科研究会等のテーマに迫る授業を行う際に記載しましょう。

※不要の場合は、省略することとします。

#### 5 単元の評価規準（小単元における評価規準）

(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	<p><b>【単元の評価規準を作成する三つの手順】</b></p> <p>①単元の目標を確認します。</p> <p>②単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成します。</p> <p>※設定の仕方については、『『指導の評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所 R2 年3月発行）P.29～が、参考となります。</p>		
	(文頭)～を通して、 ～している。(文末)	(文頭)～を通して、 ～している。(文末)	(文頭)～を通して、 しようとしている。(文末)
小単元 における 評価規準	1	①	①
	2	②	<p>③学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、『『指導の評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』P.36～39「(2)単元の評価規準、小単元における評価規準の作成の手順」を参考に、学習活動に即して、小単元の評価規準を作成します。</p> <p>※<b>単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにします。</b></p>
	3	③	

#### <育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準作成のポイント>

◎評価規準を作成する際には、評価の観点に即して、以下のポイントに留意しましょう。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(1) 気付きが自覚されること、 (2) 個別の気付きが相互に関連付くこと (3) 対象のみならず自分自身についての 気付きが生まれること</p> <p><b>以上3点を気付きの質の高まりとして見取ることが大切です。</b></p> <p>&lt;知識に関する評価規準(例)&gt; ・評価規準の構造を「〇〇に気付いている。」「〇〇が分かっている。」などとして作成します。 ※〇〇には、知識の具体を記述します。</p> <p>&lt;技能に関する評価規準(例)&gt; ・評価規準の構造を「△△において(の際)、〇〇している。」などとして作成します。 ※△△には学習活動を、〇〇には学習指導要領解説生活編(P.14)に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述するようにしましょう。</p>	<p>①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された<b>分析的に考える</b>こと、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された<b>創造的に考える</b>ことを踏まえる必要があることに留意します。</p> <p>・評価規準の構造を「〇〇して(しながら)、△△している」などとして作成します。</p> <p>※〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述します。</p> <p>※<b>思考を具体的に表したもののや、具体的な児童の姿は、次頁の枠囲みを参考にするとよいでしょう。</b></p>	<p>(1)「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること (2)「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること (3)「実感や自信」…意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、<b>安定的に行おうとしていること</b></p> <p><b>以上3点を踏まえる必要がある</b>ことに留意します。</p> <p>・評価規準の構造を「〇〇し、△△しようとしている」などとして作成します。</p> <p>※具体的な学習活動に即して、〇〇には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や手応え、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述します。</p>

【思考・判断・表現における、思考（前頁の表における〇〇）を具体的に表したものの例】

① 見付けて（見付けながら）

・ 思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など

② 比べて（比べながら）

・ 特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など

③ たとえて（たとえながら）

・ 知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて など

④ 試して（試しながら）

・ 実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながら など

⑤ 見通して（見通しながら）

・ 思い描きながら、予想しながら、振り返って など

⑥ 工夫している（工夫しながら）

・ 生かしながら、見直して など

【具体的な児童の姿（前頁の表における△△）として考えられるものの例】

・ 観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる、遊んでいる、交流している、捉えている、知らせている、利用している、伝え合っている、計画を立てている など

## 6 指導と評価の計画（ 時間）

小単元名 （時数）	主な学習活動	評価規準	評価方法
小単元名を記入 する。 （時数）	具体的な学習活動の内容を記入する。 ○ ・ ・ ・	3観点のいずれを 評価するのか記入 する。 （例） 【知】①【思】① 【態】① など	具体的な評価方法を 記入する。 （例） ・観察カードの分析 ・発言・つぶやき ・行動観察 など
（3）	○	【知】②【思】② など	
（3） （本時 7/9）	○ ・ ○ ・	【知】③【思】③ 【態】② など	

※「5 単元の評価規準」とは別に作成します。

※本時がどこかわかるように（本時）と記入します。

※「主な学習活動」においては、内容と育成を目指す資質・能力、児童の興味・関心などを基にしながら、**中核となる学習活動を設定**します。

※単元を構想する際の3つの段階を考慮します。

（発想する段階、構想する段階、計画する段階 学習指導要領解説生活編 P88～90 を参照）

※生活科で単元を構成する際には、体験活動が質的に高まっていくことを大切にします。**単に活動や体験を繰り返すのではなく、話し合いや交流、伝え合いや発表などの表現活動が適切に位置付けられることが大切**になります。この**体験活動と表現活動の相互作用が学習活動を質的に高めていくこと**につながります。

※例えば、以下①～④の学習過程を基本として、単元にふさわしい展開をつくるようにします。(学習指導要領解説生活編 P90～を参照)

①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する(伝え合う・振り返る)

学習過程は、①～④がいつも順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わることもあります。また、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合があることにも留意します。

## 7 本時の指導(○時間/○時間)

(1)本時のねらい・・・「5 単元の評価規準」及び「6 指導と評価の計画」を踏まえ、本時においては、児童にどのような資質・能力を身に付けさせるのかについて、明確に、かつ端的に記述します。

(2)本時のねらいに迫るための手立て・・・学習過程の「どの場面で」「どのような働きかけや工夫を」「なぜ行うのか(その目的)」などについて、具体的に記述します。

※「4 研究テーマとの関わり」の記載がある際は、その内容と関連させて、本時における手立てを具体的に記述することも考えられます。

### (3)学習過程

主な学習活動(○)と 予想される児童の反応(・)	時間	教師の指導・支援(◇)	評価規準【 】 評価方法〔 〕
○ ・ ・ ○		◇主な学習活動に即した教師の指導や支援を具体的に記述する。  ◇	【評価の観点を記入する。】 〔具体的な評価方法を記入する。〕
【本時の学習課題】			
○ ・ ・ ・ ○ ・ ・		◇ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">&lt;手立て1&gt;</div> ◇	

### (4)評価

本時の評価規準	※ 本時のねらいを概ね達成する評価規準について記述する。
「十分満足できる」と判断される児童の姿	※ 「本時の評価規準」以上の評価規準について記述する。
「努力を要する」状況と判断される児童への手立て	※ 基礎・基本の確実な定着の観点から、支援を要する児童への具体的な指導の手立てを記述する。

#### 【記入上のポイント】

- ・ 「支援が必要と判断される児童への手立ては」、該当児童を「本時の評価規準」に達する段階までに高めるための指導の手立てとなる。授業のどの段階で、どのような支援を行うか具体的に書く。

例：「机間指導での具体例を示した声掛け。」「ペア学習で説明し合う活動を行う。」など

(5) 準備物（教師）  
（児童）

(6) 学習の場の構成・・・必要に応じて

(7) 板書計画・・・（使用するとき）

(8) 資料・・・ワークシートなど